



## ～戮力協心～ NO.35

2024年6月6日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

**会社: 半期の業績に重きを置き「2009年度の年末手当より厳しい」が会社の考えである。このような業績でボーナスを出す企業はない。その意味でわが社は良い会社。**

**組合: 組合員のマンパワーにより、収入を得ている! 計画達成できないのは極めて会社経営陣の問題! 会社の言う3つの要素のうちの「社員の頑張り」が入っていないではないか! 再考せよ!**

## 夏季手当第3回交渉～会社の考え～

中央本部は6月6日に「夏季手当第3回交渉」を行なってきました。

### 会社の考え

- ・政府が物流革新緊急パッケージを出し、モーダルシフトを勧めており、JR貨物は総合物流企業への進化を進めており、その中でも営業に力を入れてきた。
- ・昨年度は度重なる輸送障害、物価高騰によるコスト増により、経常利益△62億円となった。これは、2009年度のリーマンショック時の△46億円より経営状況が悪い。今年度は、運賃値上げの効果もあり、前年度超えではあるが、昨日時点で対計画△5500万円となっており、予断を許さない状況。
- ・社員が賃下げ状態であるのは理解するが、経営状況が悪いことを理解してほしい。
- ・人材流失防止は、労働力不足の社会状況において、危機感はある。会社の立ち位置を理解し、世間並みの賃金にはしていきたいが、福利厚生面などでも対応して魅力を出していきたい。
- ・「半期の業績」「直近の動向」「社員の頑張り」の3つの総合を見てだが、半期の業績に重きを置いており、「2009年度の年末手当より厳しい」というのが現時点での会社の考えである。△62億円の赤字のなかで、普通の企業であればボーナスは出ない。その意味では優しい会社であり、そういう声も出ている。

### 組合の主張

- ・なぜ2009年度のリーマンショック時と比べるのか? 昨年の夏季手当は1.62カ月で妥結しており、昨年との比較からではないのか。さらに2009年度の職場要員状況と社会情勢は今とは大きく異なる。2009年度から比べると要員は減り、デジタル化が進んでも作業効率は変わらず、むしろ業務量は増えている。青年部員の負担は2009年度とは大きく違っており、労働力の価値は高い!
- ・計画を立てたのは経営陣であり、その達成ができないことの責任転嫁は認められない。赤字だから普通は出ないというが、黒字の時でも出さないのに、なぜそのような言い方をするのか!
- ・組合員のマンパワーにより、度重なる輸送障害があっても収入を確保してきている。組合員が不真面目で働いていないのであれば問題だが、そうではない。「社員の頑張り」に重きを置き、英断をする時である。再考せよ!

**会社は「交渉で積み上げていくもので現時点の考え」というが赤字の中で出してやるだけマシなんだから我慢しろという態度と物言いを青年部は断じて許さない!!**